

金欄緞子の帯締めながら花嫁御寮はなぜ泣くのだらう



角隠しとは、婚礼で花嫁が文金高島田に結った日本髪の上に被る帯状の白い布。怒りを象徴する角を隠すという意味が込められている。



文金高島田

島田髷は、髷の根を上げ、髷を高く取り付ける事で、最も上品とされ、多くの方々に愛された。

文金高島田の「文金」とは、江戸時代に流通した貨幣「文金（元文小判）」を指す言葉。この貨幣改鑄によって物価が高騰したことに例え、根元をひとときわ高く結い上げた島田髷のことを「文金高島田」と呼ぶようになったとされている。

花嫁の髪型とされるようになったのは明治時代以降だと考えられている。



黒振り袖に帯は矢の字。着物も帯もお目出度い鶴の柄。

文金高島田に髪結いながら花嫁御寮はなぜ泣くのだらう



べっ甲の簪と櫛、笄と懐剣など、伝統衣裳の小物も見逃せない。美しい衣裳をまとった花嫁。赤がアクセントになっている。